



塩冶
地区

第87号

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩冶地区社会福祉協議会 事務所 塩冶コミュニティセンター内 TEL 21-0248
塩冶社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

～平成29年度“評議員会”開催～

平成29年5月11日(木)、今年度の塩冶地区社会福祉協議会評議員会が評議員16名、理事24名、福祉委員10名の参加で開催されました。

会議では平成28年度の事業報告及び決算並びに監査報告が行われました。またその後には、平成29年度の事業計画と予算案が詳細に説明され、承認されました。

これにより、本年度も塩冶地区社会福祉協議会の基本目標として「ぬくもりのある手づくりの福祉のまちづくり」を掲げ、地域福祉・高齢者福祉・障がい者福祉及び青少年育成を基軸に、各種活動を進めてまいります。

塩冶社協の事業財源は、香典返しなどの寄付金、参加者の負担金、市社協の補助金、そして塩冶自治協会や塩冶クラブからの交付金等により賄われています。限られた貴重な財源を有効に活用するためにも、計画及び実行にあたっては地区の諸団体と協働し、また出雲市や出雲市社会福祉協議会と連携・協力し、住民が主役を基本に、真に実効ある地域福祉の増進に努めてまいります。

社協の各事業は5部会、(1)企画部 (2)総務部 (3)広報広聴部 (4)高齢者・障がい者福祉部 (5)青少年育成部により各活動を行っています。(右表参照)

また各区域においては、理事や福祉委員が中心となって、「ふれあいサロン事業」が毎年数回行われています。いろいろ工夫された行事が年間を通して行われていますので、是非ともお誘い合わせでご参加ください。

今年は福祉委員の任期となるため、各地区ともに多くの方が交代されています。(下段参照)

評議員会で承認された新体制で、5月20日(土)には理事・福祉委員合同の研修会を開催しました。塩冶地区社会福祉協議会の活動を皆が理解し、地区の各種福祉活動を行ってまいります。



平成29年度 月別活動計画

H29年 5月	●UD/BF 公園調査(開始) ●理事・福祉委員研修会 ●障がい者交流支援事業(開始)
6月	●戦没者追悼・戦争犠牲者追悼・平和記念式 ●地域美化看板点検・補修 ●話食交流会
7月	●福祉座談会 ●社協便り第87号発行 ●青少年修養の集い
9月	●高齢者福祉大会 ●日本文化体験の集い
10月	●認知症研修会 ●社協便り第88号発行 ●児童福祉綱引き大会
11月	●福祉座談会 ●いこいの集い
12月	●地域美化看板点検補修 ●社協便り第89号発行
H30年 2月	●話食交流会 ●日本文化体験の集い
3月	●社協便り第90号発行
通年	●サロン事業(区域担当理事及び福祉委員等) ●あげそげ塩冶福祉座練習・公演 ●ホームページ更新(広報広聴部)

〈新任の福祉委員〉

●区域担当福祉委員(23名)

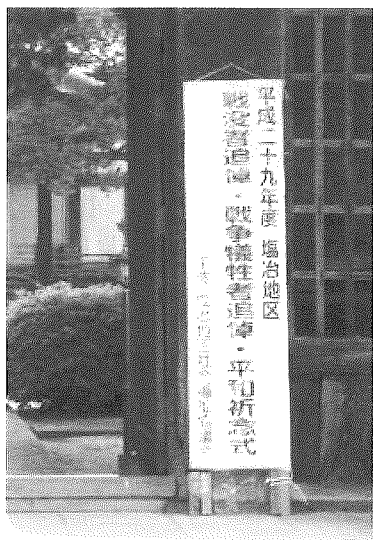
永瀬弘之(菅沢)、山本留美子(半分)、清家好子(半分)、藤原登美恵(築山)、後長清美(宮松)、板倉和子(下沢)
安田和美(下沢)、野津喜美子(揚西)、深田悦子(揚東)、三成晋二(弓原)、野津雅子(高西南)、三浦博代(高西南)
加藤幸子(高西北)、吾郷佐智子(高西北)、藤原薫(大正海上)、坂本真理子(大正海上)、伊藤進(大正海上)
宇矢洋子(北天神)、加藤早苗(北天神)、大倉節子(北天神)、周藤隆子(南天神)、森山逸子(中天神)、河野美和(天神団地)

●あげそげ塩冶福祉座劇団員(9名)

平尾庸子、杉原弘江、深田悦子、野津雅子、三浦博代、加藤幸子、矢田静子、周藤隆子、森山逸子

※任期は平成29年5月11日～平成31年度評議員会まで

塩冶地区戦没者追悼・戦争被害者追悼・平和祈念式

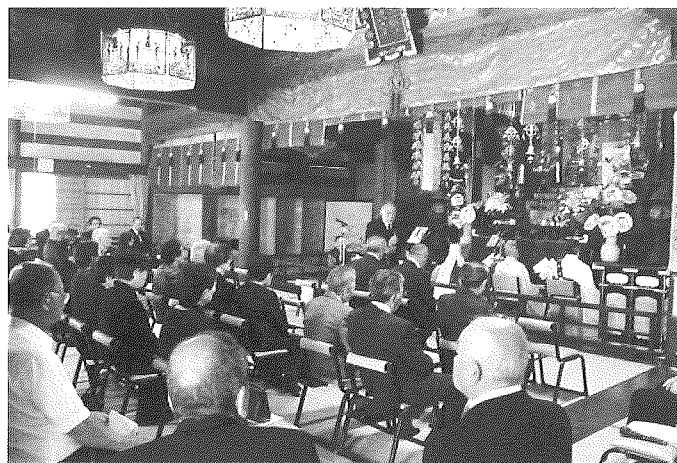


6月3日(土)、神門寺において、塩冶地区社会福祉協議会主催により「塩冶地区戦没者追悼・戦争被害者追悼・平和祈念式」が、地内4寺(神門寺、妙傳寺、本覚寺、浄音寺)により営まれました。

式典には遺族の方々37名、来賓に塩冶地区自治協会会長 板倉重安様他の出席により、戦没者名簿奉呈、各寺住職による読経、その後には塩

冶地区社会福祉協議会 中尾一彦会長より戦没者・戦争被害者の方へ追悼のことばが述べられました。

続いて塩冶地区遺族会 飯國克郎会長より謝辞があり、式典のお礼と共に戦後72年が経過した遺族会の現状

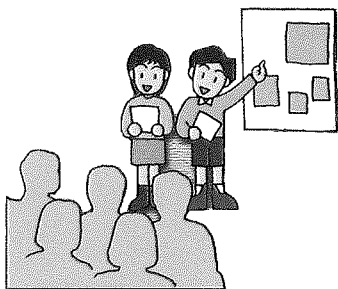


や戦没者への想い、私たちと同じような境遇になる方が絶対に出ないようにと述べられました。

その後、社協総務部の永岡部長により、『塩冶小学校児童の平和への願い』と題して、小学校よりお借りしてきた作文などの朗読があり、参列者一同で聴きました。

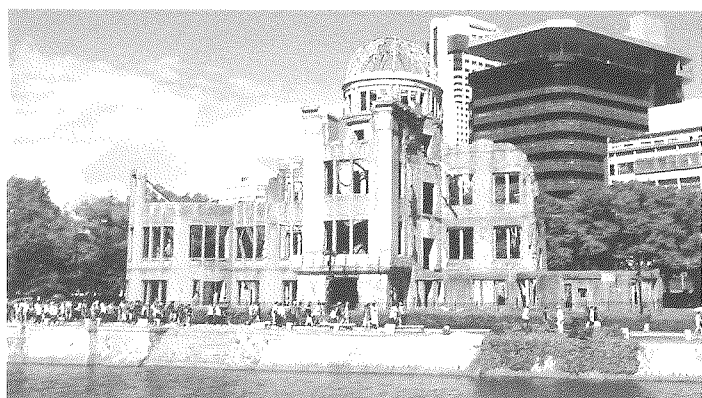
塩冶小学校児童の平和への願い (朗読)

出雲市の小学校では、修学旅行で広島へ行くにあたって、5年生の終わりから6年生にかけ、それぞれが「平和学習ノート」を持ち、「平和学習プログラム」に従って、勉強して行きます。



「平和学習プログラム」

- 学習テーマ
過去を知り、現在を見つめ未来を考える
- 学習のめあてとして
 - 戦争があった時代の人の気持ちを心で感じ取ろう。
 - 戦争、原爆について自分が必要な資料や情報を進んで集めよう。
 - 資料や情報をもとに、自分の考えや感想を平和学習ノートにまとめ、平和について考えよう。



3名の児童からこの「平和学習ノート」を借りることができましたが、兵士への想いや残された家族や国民への想いなどが繰り返しぎっしり綴られていました。

その中から一部を紹介させていただきます。



戦争は人々を傷つけ、心も努力も傷つけ、破壊して行くことを勉強して知った私たちは、体験していないけれど、戦争の恐ろしさを次の世代へ伝えていかなければならない・・・と思うようになりました。

世界中が平和になるよう、一人一人が平和について真剣に考え、努力していくことが大切と思いました。

学校では国のために死ぬことは立派なことだと教えられていた。また沖縄戦では集団自決に子どもも含まれていた。国のために死ぬことは立派なことと教えられていたことについて、私は複雑な気持ちです。

都会の子どもたちが親元を離れて疎開しなければならなかったことはとてもさみしくて辛かっただろうなあと悲しくなりました。

まだいろいろなことが書いてありましたが・・・。

塩冶小学校児童の平和への願い（朗読）

次に子どもたちが書いた「平和を築くために」と題した作文を紹介します。

※ MTさんの作文

私は、「太平洋戦争や第一次、第二次世界大戦はどんな戦いだったのか」をテーマに平和学習を行った。

私は平和を築くために、このあたり前の毎日に感謝しながら日々をすごしたらいいと思う。第一の理由は、戦争中頑張ってきた人々は、このあたり前の日々を願っていたんじゃないかと思うからだ。ある本を読んだとき、子どもたちが家族と離れ離れになると、とても悲しそうだったからだ。私たちは毎日会えるけど、戦争中の子どもたちは会えないからだ。第二の理由は、大人から子どもまで、戦争中は働いていたからだ。今では毎日学校に行ったり、お出かけしたり出来るが、戦争中はそんな暇はなく、みんな働いていたのだ。

このように今と昔では全く違う。確かにほかにも大切なことはたくさんある。だが、昔の人々が望んでいたこの毎日に感謝しなければならないと思う。



次に三名の児童が広島への修学旅行で感じた思いを「ぼくらの足あと」という文集に載せていますので、紹介します。

「平和公園でのセレモニー」

平和公園では、平和の子の像の前でセレモニーをしました。まずみんなで協力して作った千羽鶴をさげました。「原爆ゆるすまじ」と「いのちはばたくとき」を歌った時、さだこさんに思いが伝わったような気がしました。セレモニーはとても心に残りました。

「ここに残った語り部さんの話」

一番ここに残ったのは、語り部の岡田さんの話です。岡田さんは「戦争は国のために」と教わったそうです。戦争は悲惨でやってはいけないものの、間違ったことを教わったのです。こんなことがないように私たちは平和のために行動しないといけないと思いました。

「戦争の恐ろしさを知った自分」

一発の原子爆弾により、約14万人のものが命が奪われた。熱線、爆風、放射線によって、ひどい被害を受けたが、人々は一生懸命生きようとした。子どもたちは家族と離れ独りぼっちになり、ご飯も食べられなくなったりする生活だった。語り部さんの「平和が普通」の話が心に残る。僕は家族との時間を大切にしたいと思った。

今は中学一年生になっている児童の皆さんが願う「平和への願い」を話させていただきました。戦争も核兵器もない、平和な世界が訪れることを願って、朗読を終えたいと思います。

お礼：塩冶小学校よりころよくノートや作文をご提供いただきましたこと末筆ながら御礼申し上げます。

※ NHさんの作文

私が修学旅行で学んだことは二つあります。

一つ目は戦争の悲惨さと平和の大切さです。一日目に広島平和資料館へ行きました。そこには形の分からない眼鏡やボロボロになった服、表面の溶けた瓦などがあり、人々もやけどを負い、たくさんの物が被害を受けていて、もうこのようなことは絶対にしてはいけないと思いました。

語り部の岡田さんからは、「大人になった今でも、真っ赤な夕日を見ると思い出す」と泣きながら話され、71年経った今でも苦しんでいる人がいることを知りました。71年が経って日本は平和になったけど、外国では核兵器が減っていません。

命の大切さを知った私たちが、将来平和の大切さを伝えて行く役目だと思います。

二つ目はみんな重要だということです。二日目はみろくの里に行きました。入園してから、どこに行ったか分からない人がいて、周りを見てもどこにもいなくて、見つけた時には悲しい顔をしていました。しばらく楽しくなさそうだったので、班のみんなであまり話さなくなりました。

一人元気がないだけで班のみんなも元気がなくなってしまうので、班の一人一人がとても重要なんだと気づきました。

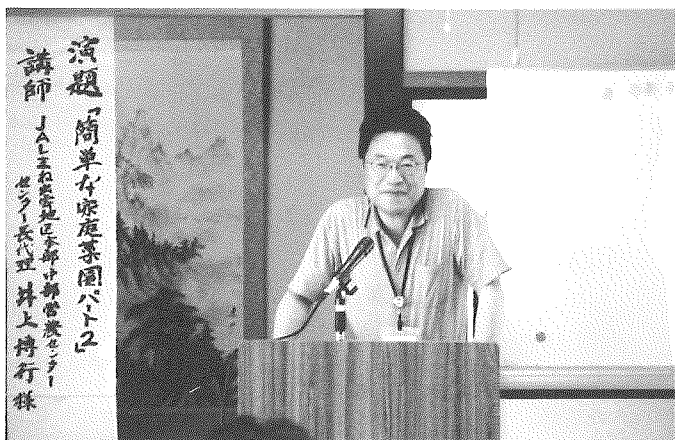
今回の修学旅行で平和の大切さ、一人一人の役目の大切さを知ることができました。それを活かして塩冶小のリーダーとして一年間がんばりたいです。

天神 サロン会

簡単な家庭菜園と からだ塾「I 出雲」

5月21日(日)、第96回サロン会を天神集会所において48名の参加で開催しました。

午前は、テーマを「簡単な家庭菜園パート2」として、講師にJAしまね出雲地区本部中部営農センター井上博之センター長代理を迎え、野菜の栽培について、特に夏野菜の全般にわたり、ナス科の苗定植・管理を、そして参加者の皆さんに配布した苗のきゅうり、ピーマン、スイートコーンの栽培について説明を受け、また支柱との結束は8の字結びをする。農薬は水に溶けにくいものから混用する。等について簡明に分かりやすく講義を受け、終わりに「野を良くする仕事が野良仕事」と集約の言葉で結ばれました。



午後は、テーマを「手と足と口で笑って」として、講師には、からだ塾「I 出雲」代表兼パーソナルトレーナー木原勇夫氏により、テーマどおり楽しく即効性のある講義を受けました。

ジャンケンポンの掛け声に応じた手の動作の一致・不一致から始まり、ボールを使って肩甲骨、肩の三角筋の運動等、次々と手、足の動きと、さらにこれらの組み合わせによる運動は、単純から複雑へ、身体と脳はフル回転となりました。



講師のユーモア溢れる話と号令、自分の手足口なのに、思うように動かないもどかしさ、会場は笑いと熱気に満ちました。参加者の皆さんが、動いて笑って、体も心も軽くなったと好評でした。

(理事 周藤祥三)

菅沢・下沢 サロン会

さまざまなカタチの 音楽を楽しみましょう!

6月23日(金)、今年第1回のサロン会を下沢会館において参加者12名(理事を含む)で開催しました。

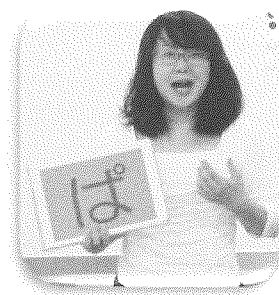
今回の講師は音楽療法研究所「とーん」の代表、金築朋子さんです。金築さんは子どもの頃から音楽を勉強され、後に音楽療法士の資格を取得、介護施設でのいろいろな経験を元に地域に密着した活動を福祉施設や公共施設で講師等をされています。

まず音楽療法で大切な四つのポイントは

- ①口腔の体操 ②季節を感じる頭の体操
- ③体でリズムを感じる ④リラクゼーション

先生の話から、楽器をやっている人とそうでない人で認知症となる差は30%、また踊りが好きな人とそうでない人でも26%の差があるそうです。昔なつかしい音楽を聴きながら、日常の生活や仕事をするとはとてもリラックスし集中力が高まり、認知症予防にはとても良いようです。

いろいろお話を聞いた後、口の体操「ぱ た か ら」



からです。介護予防の一つで、この発音の仕方によって食べる時に働く筋肉を鍛えることが出来、「誤嚥性肺炎」といった病気の予防にもなるそうです。また「ぱたから」に各々「ん」を入れるとさらに口に良い体操になるとか・・・。

さっそく先生のエレクトーンの音色に合わせて、この「ぱたから」で昔なつかしい歌を歌います。

その後は「みかんの花咲く丘」や梅雨の季節に合わせた「雨」「雨ふり」「かたつむり」といった歌に、手話を入れたり曲と歌詞を入れ替えて歌ったり、薄いスカーフ生地を片手で持って指だけで巻き取るといった頭の体操を行いながら、楽しく合唱をしました。



最後に音楽を勉強された先生から、クラシックの「野バラ」を数曲聞かせていただきました。作曲家によって全く違う歌になります。迫力ある生の歌声に参加者全員が心打たれたようで、盛大な拍手で会を終えました。

その後は参加者全員で食事を行いながら、いろんな話で歓談、もっとたくさんの人が集まればいいのに・・・といった声や次回サロン会では何をしようといった話をしながら楽しく過ごすことができました。

(菅沢・下沢 社協理事)

三原 サロン会

高齢者の交通安全 ～事故のない健康な生活を～

6月17日(土)、今年度第1回目のサロン会をホテルリッチガーデンにて参加者20名で実施しました。

出雲警察署 交通総務係長の松本健様を講師にお迎えし、昨年改正された道路交通法の中身や、普段から気をつけなければいけないことなど、頭の体操を交えてお話を伺いました。

まず島根県で発生した、交通事故件数は年間5千件以上で高齢者が関係する事故が多くなっているなど最近の状況について話をされました。

頭の体操ということで講師と参加者で「後出しジャンケンゲーム」を楽しんだ後、後からジャンケンをする人は、先にジャンケンをする人が何を出したか ①認知し、勝つために何を出すか ②判断する。そして、勝つ為に自分の手を ③操作してジャンケンをする。

これは、車の運転も同じで、①～③を繰り返しているということでした。



高齢者事故の多い要因として、道路横断中の事故で、渡り終えようとしたところに左側から直進してきた車にぶつかるということが多いということで、渡る前に左右の確認(頭だけでなく体全体で)はもちろんのこと、センターライン付近でもう一度、左側を確認し、渡ってほしいと話されました。(理事 福岡仁範)

高齢者話食交流会

6月22日(木)、高齢者・障がい者福祉部では、塩冶地区の高齢者の方(11名)、社協理事・福祉委員を含む総勢21名の参加者で「話食交流会」をコミュニティセンター調理室でおこないました。

調理指導に地域活動栄養士の坂根芳美先生をお迎えし、食事のバランスの大切さや、この日の献立について説明を受けました。今回のメニューは「穴子のちらし寿司、もずくの和え物、豚しゃぶのみそマヨサラダ、すまし汁」など手軽で夏にピッタリです。

参加者と社協の理事・福祉委員も含めて4班に分かれ、レシピを見ながらいわいがやがや、役割分担も無言の協力で調理を進めて行きました。さすがベテラン、キュウリの薄きり、卵の細切り(錦糸卵)は見事な包丁さばきです。調理が終わると「早く食べた～い」みんなで世間話を交えつつ、料理の感想など話しながら楽しい一時をすごしました。(取材 広報広聴部)

揚西 サロン会

相圓寺(高松町) 村上友章住職の講話

6月7日(水)、揚集会所において今年度最初のサロン会を開催しました。当日は朝から未曾有の悪天候でしたが、29名のみなさんに参加していただきました。

純度120%の出雲弁で、ユーモアを交えた住職のお話に「ウンウン、そげだねえ」と笑顔で頷きつつ、熱心に聴講されていました。



住職は「とげぬき地蔵」で有名な東京巣鴨の高岩寺に長年お勤めなさっていたとの事。その間には様々な人からの悩み相談も多々あったそうです。

嫁・姑のイザコザはいすこも同じことのようにですが、ホロッ・・・とさせられた印象深い一話を紹介します。

あるお嫁さんがお寺を訪れる度に姑による自分への悪態の数々を幾度も繰り返し訴えることしきり。そんなある日、久しぶりにお寺を訪れたお嫁さん「実は、姑は先日亡くなりました。死を前にして姑は、“今まで本当にありがとう、お世話になりました。”と、そして通夜の席で近所の皆さんが口々に、「お姑さんは、いつもあなたのことを自慢の嫁だとほめておられましたよ」と聞かされ、お嫁さんはお姑さんの真意もわからず、思い込みで勝手に判断していた自分のいたるなさ、姑への申し訳なさを切々と打ち明けられた。とのことでした。

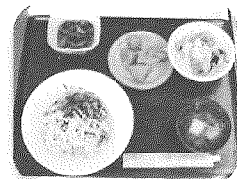
『我々も心すべきことですね。』3時すぎの閉会時には皆さんから感謝の言葉を頂き、うれしかったです。

(理事 矢田 邦雄)



【メニュー】(左から)

もずくの和え物
フルーツ(スイカ)
豚しゃぶのみそマヨサラダ
穴子のちらし寿司、すまし汁



ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(3月1日から6月30日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

※ 掲載欄の — は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

6月8日(木) T・ジョイ出雲に「たたら侍」を観に行った。6月9日(金)をもって上映を一時終了することが決まったこともあり、平日にもかかわらず座席指定券はすぐに完売された。上映時間20分前からどこからともなく集まり満席(約300人)、その80%以上が65歳以上の高齢者のようである。さすが錦織監督 渾身の作品、奥出雲の美しいシーンがいたるところで見られ、田舎者の私でも感動した。日本刀のように研ぎ澄まされた凛とした作品を是非とも、観ていただきたい。

映画もすばらしかったが、出雲の団塊の高齢者もすばらしかった。エンディングが流れ、スクリーンに何も映らなくなるまで立つ人がいなかったのには感動した。

(理事 飯國文雄)

この「地区社協便り」は、出雲市社会福祉協議会からの助成金を財源の一部として発行しております。

◆◆◆愛友会だより◆◆◆

5月20日(土)、さわやかな五月晴れのもと、心地よい風を受けながら、古志スポーツセンターのグラウンドにおいて、古志地区社会福祉協議会やグラウンドゴルフ同好会の協力により、愛友会(伊藤会長)の会員と古志地区の身障者団体の方々によるグラウンドゴルフの交流会が行われました。

最初に古志地区社会福祉協議会 三谷 進会長より、「身障者の方とスポーツと一緒に楽しもうとこの交流会を計画しました。今日はとても暑くなるようなので、水分をしっかりとって休憩しながら、和気あいあいと楽しい交流会にしましょう。」との挨拶のあとに、同好会の方からルール説明や注意があり、その後は参加者20名が5人ずつ4組に分かれて、8ホール2ラウンドのグラウンドゴルフを楽しみました。



グラウンドゴルフが初めての方、まして車いすの方にとって、クラブをどう振るのか……。ポストをめがけてクラブを振りますがなかなか距離が出ません。

私は取材をしながら、車いすの方の補助をしつつ、車いすの角度を調整してから打撃してもらいますが、なかなか思うようには飛ばない、難しい……。

それでも途中で休憩をしながら、一時間半掛かって1ラウンドを回り、その後はもう1ラウンドです。



青い空の下、参加された皆さん、グラウンドゴルフをたっぷり楽しまれたようです。次回は塩冶地区で交流会を行いたいとのことです。お疲れさまでした。

(取材：広報公聴部)